

「熊本地震学童保育募金」
「平成二八年熊本地震学童保育支
援募金」終了の「報告」

熊本県学童保育連絡協議会・

会長 神田公司

二〇一六年四月に発生した「平成二八年熊本地震」から三年が経過しました。熊本県内では犠牲者を悼む追悼式などが開かれましたが、全国的に大きく報道されることはありませんでした。二〇一九年五月二〇日現在、仮設住宅・みなし仮設住宅に住む被災者は一万四〇〇〇人あまりです。徐々にはあられ、災害公営住宅も整備はされていますが、未だに多くの方々が不自由な暮らしを余儀なくされています。

被害が大きかった益城町では、二〇一六年七月に「広安西小すずらん育成クラブ」「益城中央小児童クラブ」の仮設施設が設置されました。現在、これらは解体され、「広安西小すずらん育成クラブ」は新たな施設が建設されました。「益城中央小児童クラブ」は空き教室を第二学童保育所として使うことになりました。また、現在は音楽室で保育を行っている「飯野小児童クラブ」も専用施設の建設が進められており、二〇一九年七月には完成する見込みです。空き教室で保育を行っている「広安おひさまクラブ」も、二〇一九年

一〇月には専用施設が完成します。

このように、被災地の学童保育については徐々にはあられ、整備が進んでいます。これには、「施設整備費」の三分の二を国が負担していることも功を奏していると思われま

す。熊本県学童保育連絡協議会（以下、県連協）では、これらの状況をふまえて、二〇一六年五月から実施してきた「熊本地震学童保育募金」活動の終了を決めました。県連協に直接お寄せいただいた募金と、全国学童保育連絡協議会にお寄せいただいた「平成二八年熊本地震学童保育支援募金」から県連協に送金された募金の総額は、六八七万二七五五円。そのうち三六二万七五四円を支出し、残金は三二四万五六一円です。

今後は、こちらの募金を活用して、益城町の新施設への備品の支援や、二〇一七年からつづけている「心のケアのための遊びのプログラム」などに活用したいと思っております。全国の仲間たちの支援があったからこそ、地震発生後三か月あまりで、二か所の仮設施設の建設が実現しましたし、子どもたちへ書籍や遊具、備品を贈り、「心のケア」のための活動を展開することができました。あらためて、募金等にご協力くださった全国各地の皆さんに心からのお礼を申し上げますとともに、残金についても被災した地域の学童保育支援

のためにしっかりと活用させていただくことを報告します。本当にありがとうございました。

*二〇一六年六月二日より全国学童保育連絡協議会が実施してきた、「平成二八年熊本地震学童保育支援募金」も二〇一九年六月末をもって終了とさせていただきます。ご協力くださった皆様に、心より御礼を申し上げます。（全国学童保育連絡協議会）

◆熊本地震学童保育募金のご報告（2019年5月20日現在）

募金合計	6,872,755 円（預金利子 51 円を含む）
	（内、全国学童保育連絡協議会が呼びかけている「平成 28 年熊本地震学童保育支援募金」から 4,020,000 円）
支出済み	3,627,154 円
残金	3,245,601 円

【支出内訳】

・広安西小すずらん育成クラブ（仮設備品）	600,000 円
・益城中央小児童クラブ（仮設備品と雨よけ設備）	485,000 円
・被災した学童保育所へ（遊具など）	172,508 円
・立野放課後児童クラブ（南阿蘇村）（仮設学童保育所備品）	572,278 円
・飯野小学童クラブ（備品）	313,848 円
・広安小第 3 学童（広安おひさまクラブ）（空き教室での備品一式）	600,000 円
・心のケアのための遊びのプログラム（2017 年、2018 年）	380,472 円
・広安西小すずらん育成クラブ（専用室備品）	497,000 円
・送金手数料	6,048 円